

船橋地区砕石造成のアサリ資源に対する効果の検証

目的 アサリ秋冬季減耗要因の1つには波浪によるアサリ稚貝の掘り起こしと考えられている。そこで、底質を安定させることで稚貝の定着を促進するため、砕石を覆砂して効果を検証する。

概要

水産多面的機能発揮対策事業のうち干潟等の保全「客土」活動によって実施した砕石場所におけるアサリの沈着状況や成長を確認する。

平成 29 年度

25×60m 360 m³ 厚さ 24 cm
7号砕石(φ2.5~5.0 mm 平均 3 mm)

平成 30 年度

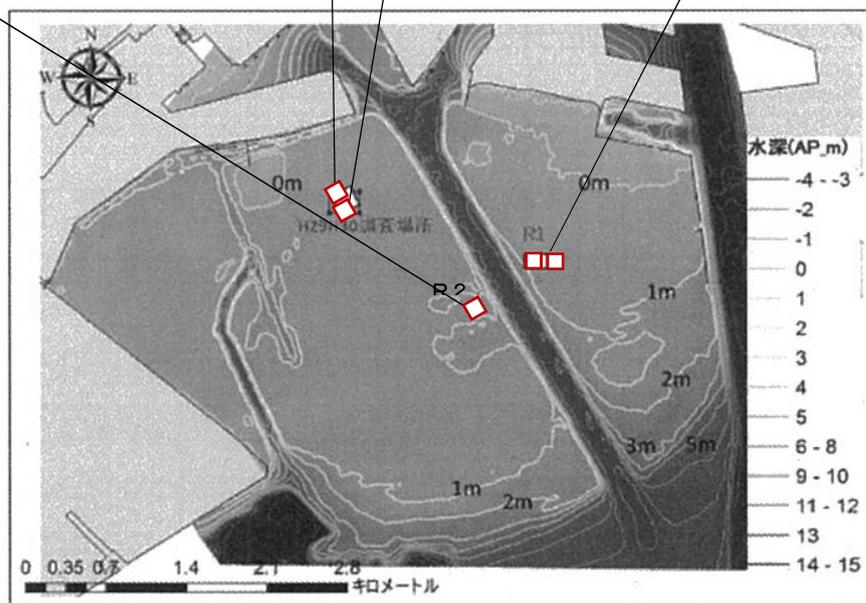
25×60m 360 m³ 厚さ 24 cm
7号砕石(φ2.5~5.0 mm 平均 3 mm)

令和 2 年度

40×50m 678 m³ 厚さ 30 cm
7号砕石(φ2.5~5.0 mm 平均 3 mm)

令和元年度

675 m³
25×40m 厚さ 33 cm
7号砕石(φ2.5~5.0 mm 平均 3 mm)
25×40m 厚さ 33 cm
6号砕石(φ5 ~13 mm 平均 7 mm)



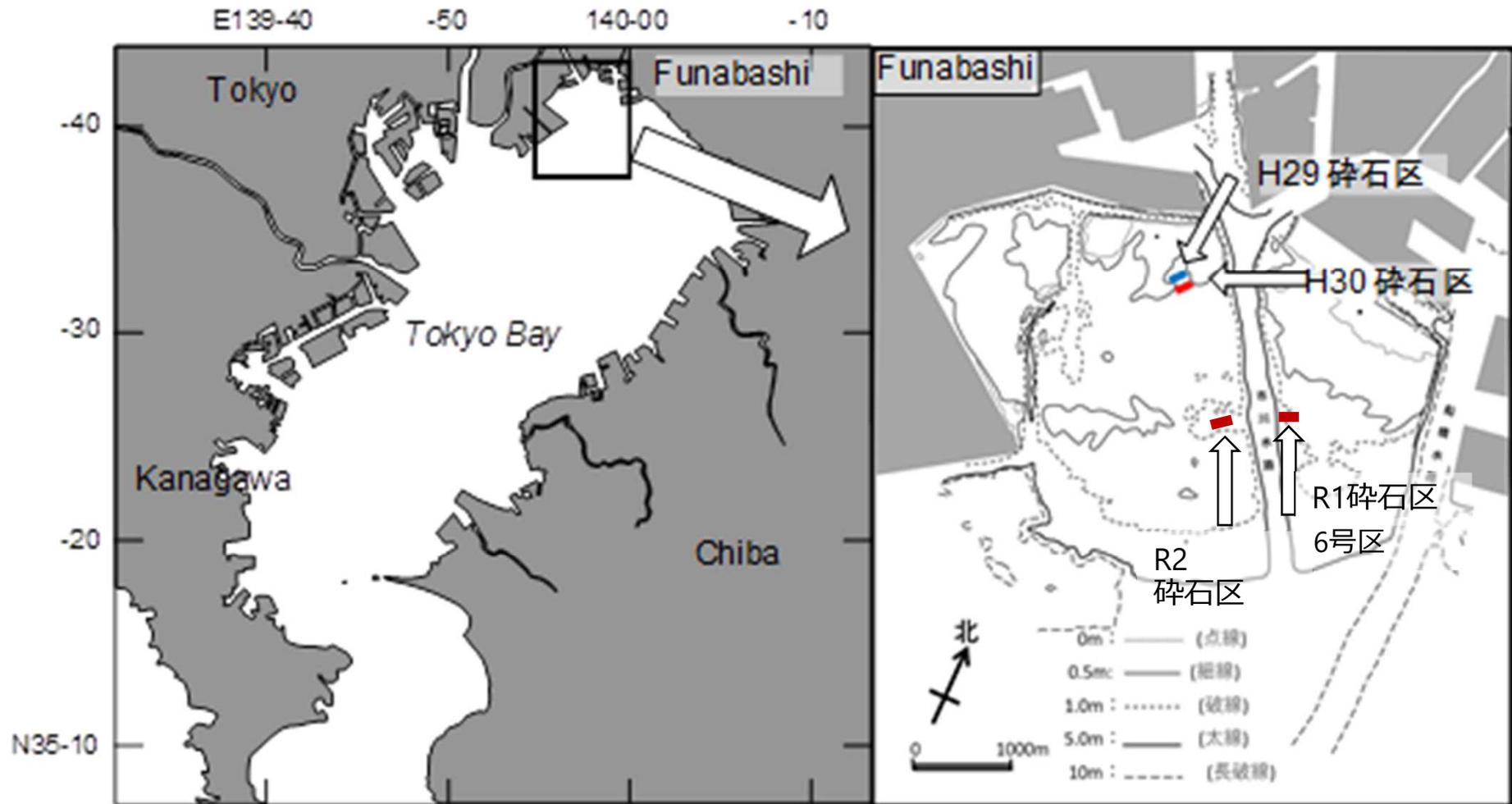
令和2年12月8日
令和2年度第3回船橋市漁協
活動グループ砕石覆砂検討会

砕石造成区調査結果 (10月までの結果)

千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

- 本調査内容は、
令和2年度水産基盤整備調査委託事業
「アサリ漁業復活のための大規模漁場整備技術
・維持管理手法の開発」に基づき実施された
ものである。

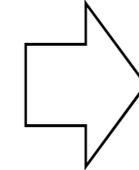
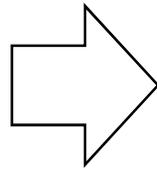
碎石覆砂実施場所



- H29・H30碎石区はそれぞれの年に7号碎石を敷設。
- R1は、R1碎石区（7号）と6号碎石区を別に敷設。
- R2は、7号碎石を敷設。

調査方法と調査地点 (H29・30)

船上からの採泥調査



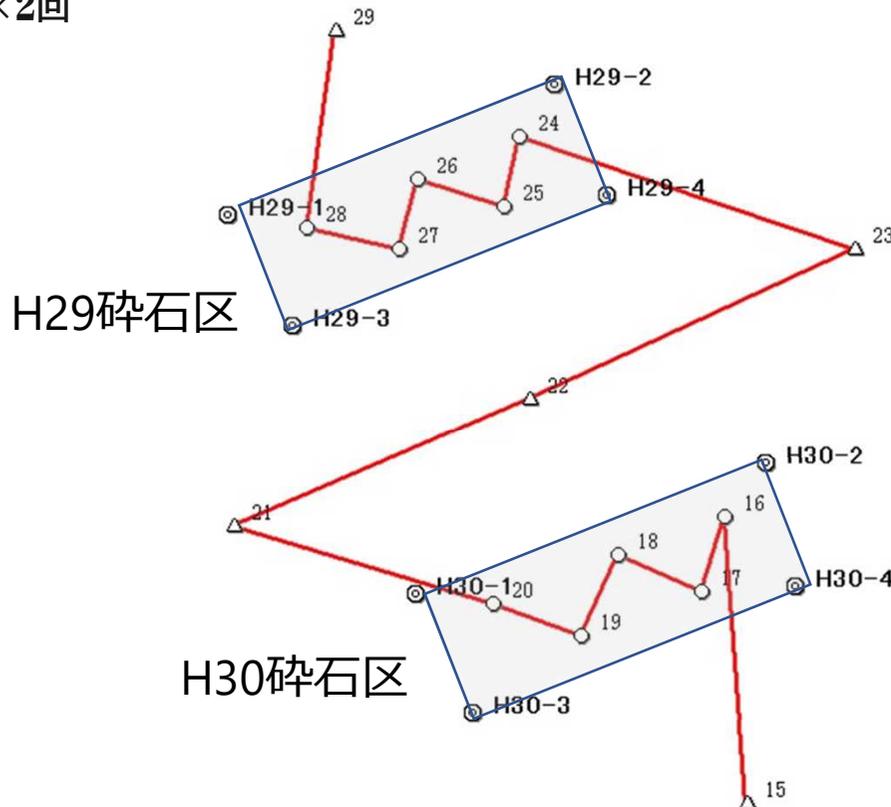
計数・計測



軽量簡易グラブ採泥器(0.05m²)
×2回

稚貝試料採集
目合い2mmのふるい

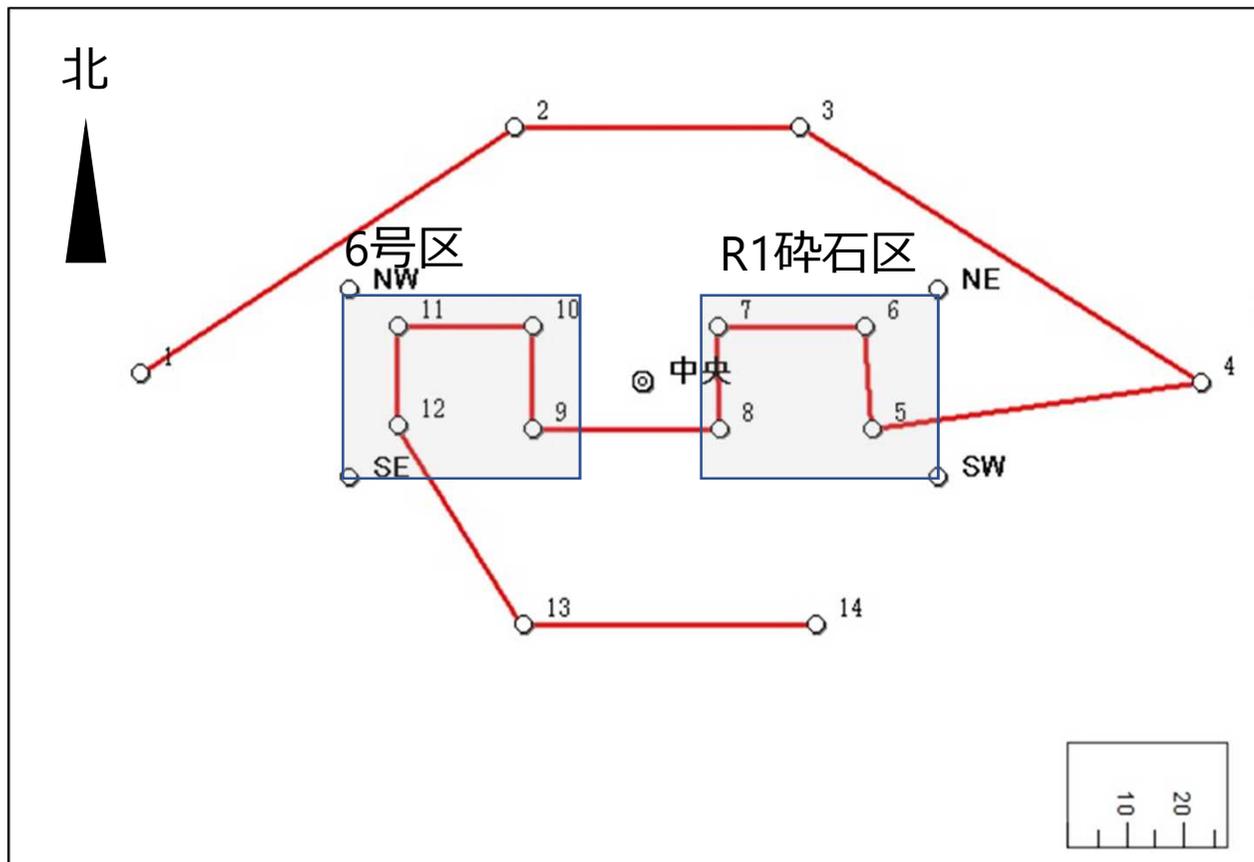
実体顕微鏡下または
目視で選別・同定・計測



調査間隔
6月以降毎月1回

調査地点：15地点
 H29碎石区：5地点
 H30碎石予定区：5地点
 対照区：5地点
 岸側：1地点
 沖側：1地点
 西側：1地点
 東側：1地点
 碎石区間：1地点

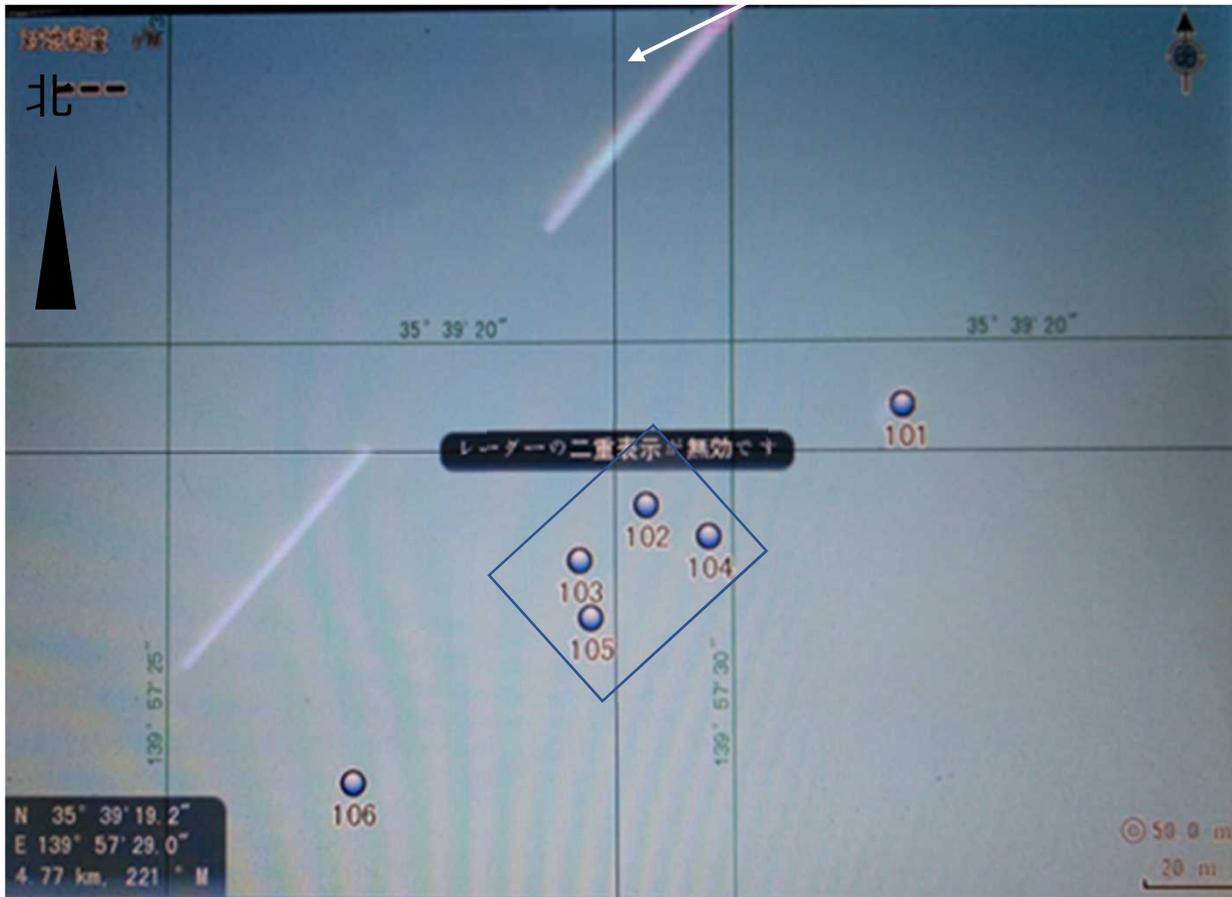
調査地点 (R1・6号)



調査間隔
6月以降毎月1回

調査地点：14地点
R1 碎石区：4地点
6号碎石区：4地点
对照区：6地点
岸側：2地点
沖側：2地点
西側：1地点
東側：1地点

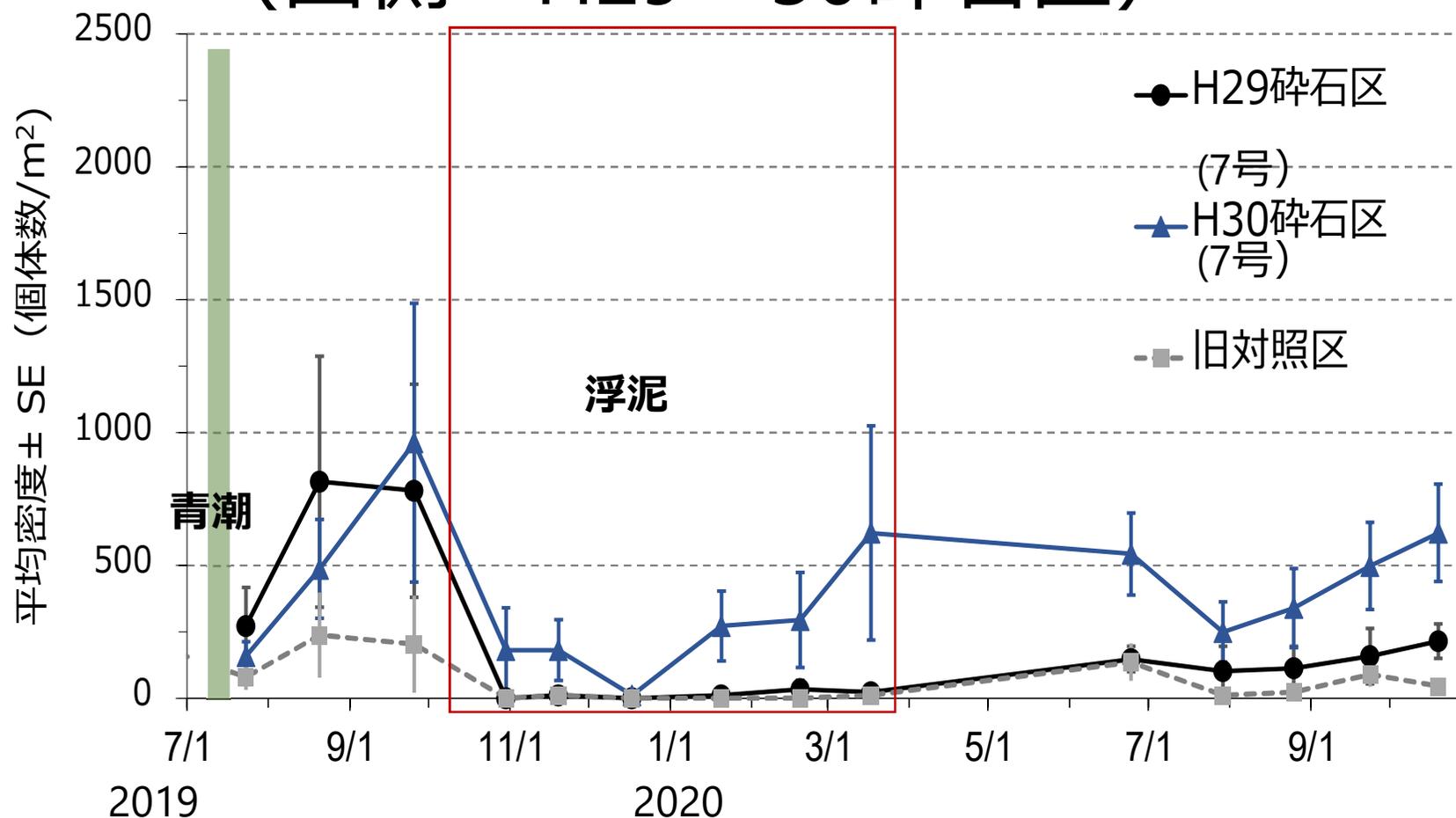
調査地点 (R2)



調査間隔
施工前 : 6/24
施工 : 6/27・28・30
7/10・13
施行後 : 7月以降毎月1回

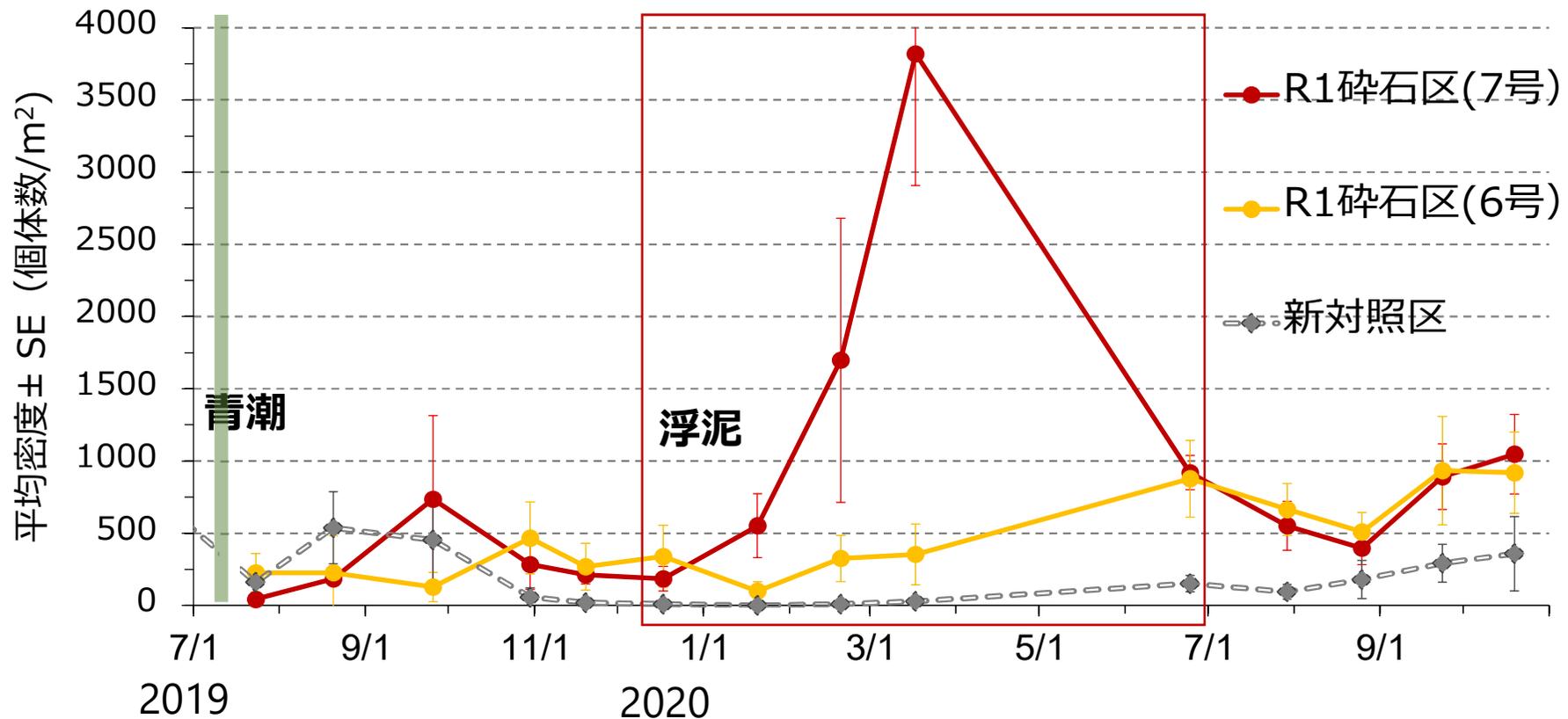
調査地点 : 6地点
R2 碎石区 : 4地点
对照区 : 2地点

アサリ密度の推移 (西側・H29・30碎石区)



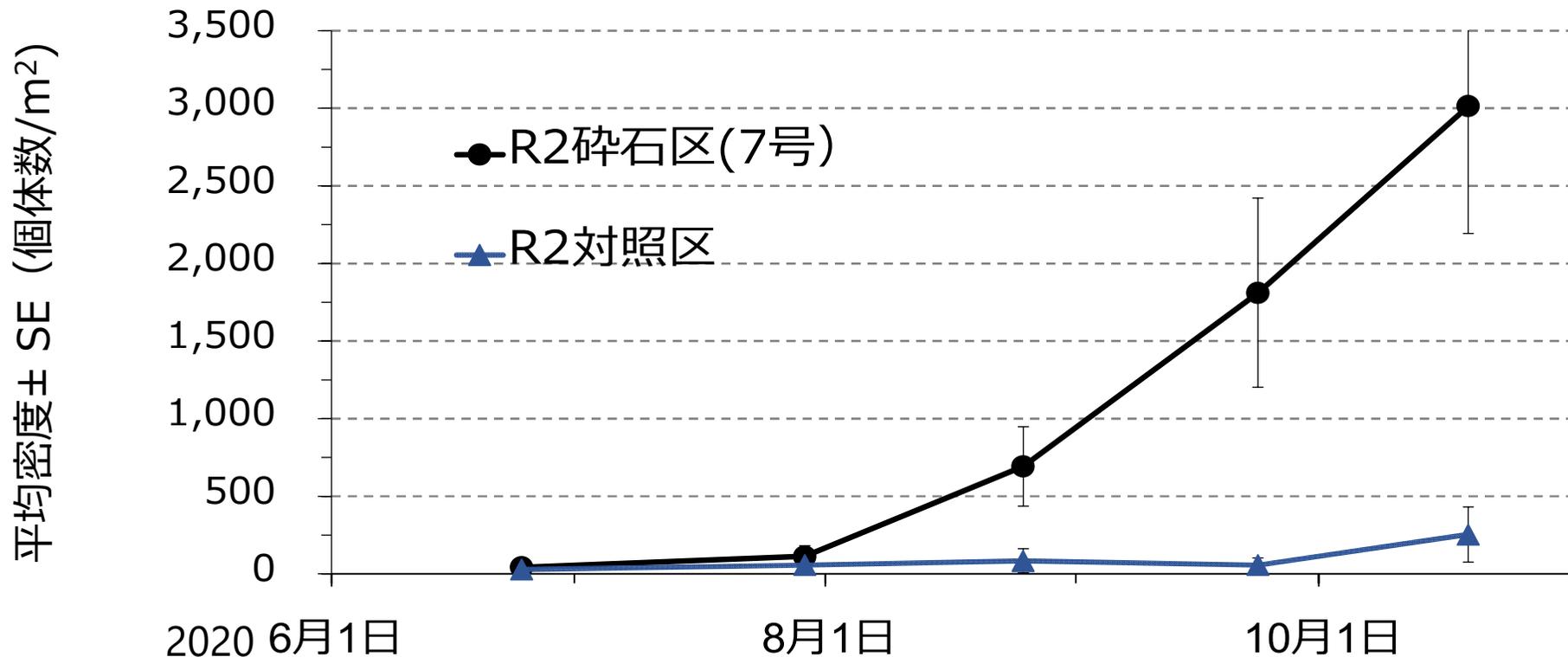
- 昨年度の台風による浮泥で密度が減少したH29碎石区は、10月の調査で200個体/m²を超えた。
- H30碎石区ではH29碎石区よりも高い密度で推移し、10月調査では600個体/m²を超えた。

アサリ密度の推移 (東側：R1・6号砕石区)



- R1碎石区(7号) はR2年3月の調査時には3,500個/ m²を超える密度となった。これは、前年秋生まれの稚貝と考えられ、周辺からの蛸集も推測される。8月には密度が低下したが、その後増加し 1,000個/ m²となった。

アサリ密度の推移 (西側：R2碎石区)



- ・ 6・7月に碎石覆砂が行われたR2碎石区はその後の調査で密度が増加し10月の調査では3000個体/m²を超えた。
- ・ 2020年10月時のアサリの密度は以下の順に高かった。

